

賀谷藻部の紹介

賀谷藻部 (mob) とは
NPO法人賀谷藻場保全会の
公式応援団体です。

NPO法人賀谷藻場保全会が行う
藻場再生活動への協力と、
漁村との交流を目指しています。

応援会員の皆様には、mob通信と、
心からの返礼品をお送り致します。
どうぞお気軽にお尋ねください。

NPO法人賀谷藻場保全会の活動を、
応援団体賀谷藻部会員の皆様と共に
続けて参ります。

応援会員の年会費と返礼品の回数

Sコース・ガヤモバ海
120,000円/年 4回
Gコース・ガヤモバ土
30,000円/年 4回
Aコース・ガヤモバ水
10,000円/年 2回
Wコース・ガヤモバ風
5,000円/年 1回



振込先
九州信用漁業協同組合連合会
長崎統括支店 (県コード9489 店番004)
普通口座 口座番号 5100113
特定非営利活動法人賀谷藻場保全会



<https://gayamoba-2.jimdosite.com/>



[gayamoba](https://www.facebook.com/gayamoba)



[@gachimoba](https://twitter.com/gachimoba)



[gaya.mob](https://www.instagram.com/gaya.mob)



[gayamob](https://line.me/tv/gayamob)



0920-55-0246

[gayamobahozenkai](mailto:gayamobahozenkai@gmail.com)

[@gmail.com](mailto:gayamobahozenkai@gmail.com)



当パンフレットは環境省の令和4年度
「令和の里海づくり」モデル事業で作成しました

mob通信
2022年秋号



素晴らしき今日を
あなたとともに



発行
NPO法人賀谷藻場保全会



秋の賀谷地先モニタリング



秋のモニタリング賀谷地先が2016年に海藻消滅した後、砂地の中にあつた瀬(モニタリングポイント48番)では海藻が復活していました。

この場所の復活の要因を調査していましたが、今年の秋、48番の海藻も再び消滅してしまいました。



2019年に48番で芽吹いたカジメ

2022年秋のモニタリング時の様子

写真の石は人為的に設置した物で、海中に石を設置し海藻を生やす手法そのものは、江戸時代に考案されたといわれています。賀谷藻場では、海藻と環境保全の先駆者でいらっしゃる新井章吾先生の指導の下、2019年に山からスベスベの石(ザラザラの石では海藻より先に無節サンゴなどが繁殖する為)を選び、海底湧水が活発な地点に石同士の距離を1メートル程度確保して設置しています。

石同士を離す理由は海底の砂で石を洗う事と海藻にとっての捕食者(小型巻貝、アイゴ、メジナなど)の棲家にしない為です。

現場を熟知し「水の大循環」という自然の営みからの目線で海藻の保全活動を実践される新井先生の洞察では、その後のカジメの再生と今秋の消滅を予測しておられました。覚悟していた事とはいえ、実際に海藻がなくなってしまったことを目の当たりにして、少々落ち込んでおります。

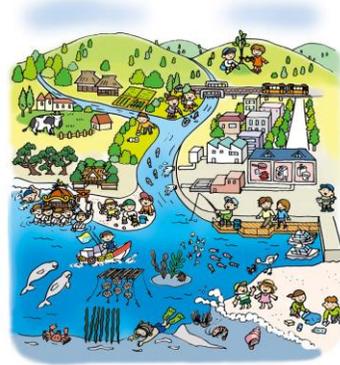
しかし、実は海藻養殖によって「擬似藻場」を作るという次のステージの準備を2020年から始めています。もちろん天然場を諦める訳はありませんが、なかなか結果を出せない今、擬似藻場作りも重要な作業と考えています。

令和の里海モデル事業採択



環境省が行っている令和の里海モデル事業の10サイトの1つに賀谷藻場保全会の活動が採択されました。

この事業は、海を守るだけでなく、陸地の環境や地域社会と循環したつながりを作っていく取り組みです。



©環境省里海ネット

里海とは、この図のように、海の資源と人の暮らしや文化、山の資源が循環し持続的に使われる状態のことです。

賀谷藻場保全会でも、今年度この事業を活用し、新たに里地利用(耕作放棄地での野菜づくりや植林地の拡大)、普及啓発、商品開発にも取り組みます。山仕事、畑仕事を通して海底湧水を増やすと共にそこから得た産品による売り上げで里海の維持を試みます。



新しく耕作放棄地を耕して、フキを育てることにしました。来春の出荷を目指します!

出張授業



対馬市立西部中学校と対馬市立厳原北小学校、私立武蔵高校の生徒さんに海の保全活動について授業をしました。



厳原北小での出張授業の様子。藻場の生き物を連れて出張水族館を行い、対馬の海のことを体験してもらいました。

生徒さんからは、「漁船に乗せてもらい感動した!」と感想をもらいました。西部中での講話は、対馬市の広報6月号を読んだ生徒さんからのリクエストでした!



対馬市の広報6月号で賀谷藻場保全会の取り組みを紹介して頂きました。表紙を代表の鎌田が飾りました。広報誌の内容はQRコードからご覧ください